

松波小学校だより

第 8 号
令和 5 年 3 月 1 日
能登町立松波小学校

卒業生との集い

卒業生との集いが終わり、1 週間がたちました。感染対策もしながらの開催も 3 年目です。今年は全児童が、体育館で直接参加し、保護者の方々には直接見る時と、リモートで見る時というハイブリッド型での開催でした。

卒業生との集いは、在校生は卒業生に今までお世話をたくさんしてくれてありがとうという感謝の気持ちを伝え、卒業生も在校生はじめ家族の方、先生に感謝を伝えようと、みんな一生懸命練習してきました。おおぜいの人の前で表現することは、恥ずかしさを克服したり、勇気を出して自分を表現したりしなければなりません。たいへんではありますが、これが子どもたちを大きく成長させることになります。人前で大きな声を出し自分を表現する経験が、自分の糧となると思います。

私も何度も各教室や体育館に足を運び、練習を重ねるところから見てきました。まずは、大きな声を出すことから始まり動作をつけること、ダンスの場合は振りを覚えることなどたくさんすることがあります。子どもたちはその一つ一つをクリアしていきました。日を追うごとに上手になっていきました。

集いの当日は、跳び箱が今までできなかつたのに、勇気を持って挑戦する姿、そして声援する級友の姿、自分のできる縄跳びの技に必死に挑戦する姿、楽しんでもらおうとおどけたしぐさや言葉で愛嬌を振りまく姿、心を一つにして級友と曲を合わせようとする姿、素早くボールを受けては投げる姿、テンポのよい曲に合わせノリノリでダンスをする姿、全校の誰もが考えられるように工夫したクイズで盛り上げようとする姿、いろいろな松波小学校の児童を見ることができました。手拍手したり、笑ったり、人と人がいっしょにできる事のありがたさを感じる大変思い出深い集いとなりました。

今年一年、子どもたちはどんなことができるようになったのでしょうか。どの子にも何かしらできるようになったことがあるはずです。一人一人によいところがあり成長があるので、そこを認めて褒めていきたいと思いました。

令和 5 年 3 月

松波小学校 校長 前田 稔子